



町長エッセイ



小川和紙は1,300年の歴史を持つとされていますが、東松山市の箭弓神社でも御鎮座1,300年を迎える記念イベントがありました。「ギネス世界記録・町おこしニッポン」の実行委員会が奉祝行事のひとつとして、手漉き技術がユネスコ無形文化遺産に登録された細川紙に文字をしたため、1.3m四方の巨大御朱印を押印するというものでした。1.3mとは、1,300年にちなんでいます。

世界で最も大きな木製スタンプ「御朱印」は、その重さおよそ420kg。埼玉県の木であり、また小川町の木でもあるケヤキが使われましたが、樹齢約500年の原木に彫られ

たと聞きました。

小川町で漉かれた大きな細川紙を何枚もつなぎ合せ、「箭弓稲荷神社」の6文字を書き入れたその上に、巨大スタンプがクレーンでゆっくり吊り上げられ、そして降ろされると、朱色があざやかに浮かび上がりました。ギネス世界記録認定員によって、「世界記録決定」が伝えられると、会場全体から大きな歓声と拍手がおこりました。

比企の地から、「細川紙の手漉き技術のユネスコ無形文化遺産登録」「梶田隆章先生のノーベル賞受賞」そして「巨大御朱印のギネス世界記録達成」と3つの祝いが重なり、地域連携の力とその重要性を感じさせたイベントでした。